



海外生保事業を通じた「安心の絆」

当社は2007年の日本生保初となるベトナム進出を皮切りに、インド、タイ、オーストラリアと、生命保険市場の拡大が期待されるアジアを中心に海外生保事業を積極的に展開しています。

110年にわたる当社の歴史の中で培ってきたノウハウの活用による既進出先の企業価値向上に着実に取り組むとともに、昨年度はTALの100%子会社化や中国での合併生保会社設立に向けた認可取得など、さらなる事業拡大に向けた動きを推進することができました。

生命保険は大多数の法則に基づく高度な技術的仕組みと「一人は万人のために、万人は一人のために」という人と人との絆が組み合わせられた相互扶助の制度です。

当社では50年前の1962年以来アジア各国を中心に多くの研修生を受け入れ、生命保険の普及活動を通じて各

国における生命保険事業の健全な発展に貢献すべく取り組んでまいりました。

こうした精神を受け継ぎ、貯蓄性・投資性商品が中心の海外市場において、生命保険本来の機能発揮に向けた保障性商品の普及にも努め、当社が事業展開する各国の国民に対する安定した生活・安心の提供、さらには現地での雇用創出等を通じて社会全体の発展にも貢献していきたいと考えています。



支配人 国際業務部長
小谷 隆之

いちばん、成長する期待の高い会社

グローバルな視点を持ち、未来に向けた新たな挑戦を継続することで、新たな価値を創出し、成長する期待の高い会社になることを目指しています。

中国事業

中国五大電力会社の一社で中国政府直轄の中央国有企業である中国華電集团公司と合併生命保険会社を設立することで基本合意し、2011年11月に中国保険監督管理委員会より設立準備認可を取得したことを発表しました。

スター・ユニオン・第一ライフ

現地大手国有銀行2行との合併生命保険会社であるスター・ユニオン・第一ライフは、2009年2月に営業を開始し、日本の生命保険会社として初めてインドの生命保険事業に進出しました。

合併パートナーである現地大手国有銀行2行を通じた保険販売を主力としており、開業後3年間で新契約保険料のランキングでは民間生保会社23社中11位(2011年度末時点)と順調に伸びています。

オーシャンライフ

2008年7月、オーシャンライフと、当社出資および業務提携を行うことで合意し、同年関連会社化を実現しました。

以降継続的に個人代理人の営業力強化など、企業価値向上に向けた協働取組を実施しており、2011年度の収入保険料は業界平均を上回る伸びをしています。

第一生命ベトナム

2007年1月、日本の生命保険会社として初めてベトナムに進出しました。同国の生保市場全体が急成長を遂げる中で、当社子会社である第一生命ベトナムの収入保険料は子会社化以前の2006年度に比べて約3.2倍に伸び、マーケットシェアも2006年度の4.4%から、2011年度には7.3%まで拡大しています。

同社は生命保険事業の展開とともに社会貢献活動にも力を入れており、こうしたベトナム経済・社会への貢献が高く評価され、経済発展に貢献した外資系企業に授与される「ゴールデンドラゴン賞」を2009年から2012年まで4年連続で受賞したほか、社会貢献活動を積極的に展開する企業に対して贈られる「コミュニティ・ケア賞」を2011年に受賞しました。

TAL

2011年5月、当社の関連会社であったタワーは、友好的な買収手法により完全子会社となり、2011年6月にTALへ社名変更を行いました。

同社は、保障性商品に特化した戦略を取っており、2011年度の収入保険料を前年度比で21.5%増加させ、今後の高成長が期待されるオーストラリアの保障性商品市場においてシェアを拡大させています。

社会貢献活動にも力を入れており、恵まれない子どもたちに自転車を贈る団体を支援するため、同社の職員自身が組み立てた自転車を団体に寄贈する活動を行いました。また、乳がんの研究支援を行うチャリティマラソンのスポンサーとなり、職員自身も積極的にマラソンに参加するなど、全社を挙げて取り組んでいます。

事業展開だけでなく、社会貢献も共に協力していきます

2011年、タイでの記録的な洪水被害に見舞われた被災者支援を目的として、第一生命から約440万パーツ(1,100万円)の義援金を寄付いただきました。当社ではその義援金をもとに、第一生命からの出向者と共に避難所を訪問し、被災者の方々に直接食事や救援物資の提供を行ったほか、

赤十字社を通じた寄付活動を実施するなど、多くの市民に勇気と希望をお届けすることができました。その際被災者の方から多くの感謝と前向きな声をいただき、当社としても、このような状況に対して第一生命と共同で社会貢献活動を行えたことを大変誇りに思います。



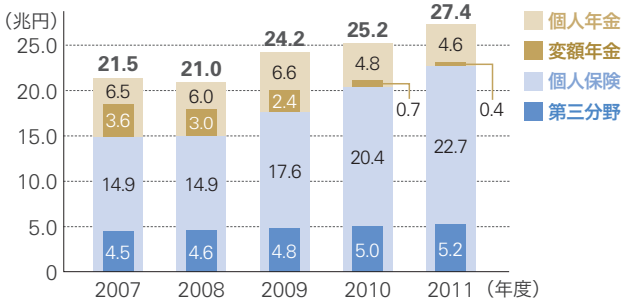
オーシャンライフ 社長
ヌサラ・パンヤットピヤポット

国内での成長に向けた さまざまな取り組み

老後、医療・介護分野への取り組み

少子高齢化等、社会構造の長期的展望を踏まえると、生命保険事業が果たす役割は拡大していくものと予想されます。このような環境の中、当社は、お客さま一人ひとりに最適なお提案ができるよう、「新・生涯設計」のコンセプトのもと、遺族保障に加え、老後、医療・介護といった第三分野で品質の高い商品やサービスを提供していきます。

民間生保の保険料収入推移（個人保険、個人年金保険）



※第三分野は保有契約年換算保険料、変額年金は新契約高にて記載しています。

第一フロンティア生命での 貯蓄性保険販売

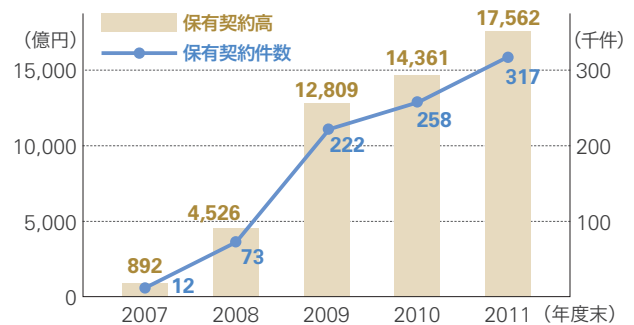
当社は、銀行・証券会社等による貯蓄性保険等の販売（以下、「窓販事業」）により、お客さま一人ひとりの資産形成をお手伝いするという新しい事業領域を本格的に切り拓くべく、窓販事業向け商品の供給を専門的に行う第一フロンティア生命保険株式会社（以下、「第一フロンティア生命」）を設立し、2007年10月に営業を開始しました。

第一フロンティア生命は、最低受取保証額のステップアップ機能を組み込んだ変額個人年金保険や、運用期間満了時の年金原資額が契約時にあらかじめ定まる定額年金保険等、お客さまのさまざまなニーズにお応えした商品を発売してきました。2011年度は、運用目標値到達時に成果を確定させるターゲット機能付の外貨年金保険や、運用期間5年の新たな円貨定額年金保険・変額年金保険等を商品ラインアップに加え、多様なお客さまニーズにより一層きめ細かく対応できる商品体系としました。

第一フロンティア生命の保有契約高は順調に増加しており、2012年3月末時点で1兆7,562億円となっています。今後も第一フロンティア生命は、第一生命グループ

の一員として、グループの総合力を最大限に発揮し、お客さまのニーズに対応した商品・サービスをタイムリーに提供していきます。

第一フロンティア生命実績



CSRの観点での運用の考え方

当社は、約30兆円の資産を運用する金融機関として、お客さまからお預かりした保険料を主に長期の債券・融資・株式等を通じて、国や地方公共団体、産業界に供給する金融仲介機能を担い、経済の健全な発展に寄与しています。また、投融資の対象企業や資金使途を慎重に見極め、公序良俗に反するものや、環境破壊・投機的な土地取引を助長するようなものについては取り組まないことを資産運用部門の業務行動基準に明示しています。

今後も、生命保険事業が持つ公共性と資産運用行動が経済全体に及ぼす影響力の大きさを認識し、安全性・有利性のみならず、社会性・公共性にも配慮した資産運用を心がけていきます。

SRIファンドを通じた取り組み

生命保険業界初の取り組みとして2010年10月に、当社資産の運用を目的とした社会的責任投資(SRI[※])ファンド(資金規模10億円)を当社内で設立し、環境保護や社会貢献等に優れた国内企業を、当社独自の視点を取り入れた基準により約100社選定し投資しています。

本取り組みは、投資先の財務的な評価だけでなく、CSRへの取り組みを重視した投資を行うことで、社会全体のCSR推進への寄与に加えて、長期的に持続可能な安定成長企業を発掘することも目的としています。

このように、資産運用においても、お客さまや株主・投資家等、多くのステークホルダーの期待に応えることを意識しつつ、広く社会に寄与する取り組みを推進していきます。

※ Socially Responsible Investmentの略称：一般的に財務情報のほか、コンプライアンス、情報公開、従業員への配慮、取引先の労働条件、地域社会への貢献、環境への配慮などを考慮して投融資を行う手法。